サッカー馬鹿の学園物語

恋愛マスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
サッカー馬鹿の学園物語

【Ｎコード】
Ｎ８５５５Ｌ

【作者名】
恋愛マスター

【あらすじ】
主人公田中孝祐を中心とした仲間、友達とのサッカーでの友情。学園内でのコメディ風会話、恋愛を中心とした物語。

そんなはずでは・・・・・・・・・

こんなはずじゃなかった・・・・・・

俺の名前は田中　孝祐（たなかこうすけ）中学校に入学したばかりのサッカー馬鹿。

でもただのサッカー馬鹿じゃない一応ナショナルトレセンにも選ばれているんだ。

そんな俺だからＪリーグのユースに入るとばかり思われていた・・・・。

でもそんな俺がいるのは県内でも有名な弱小校。県大会どころか地区予選１回戦で負けているようなチーム

きっかけは親のある一言

「ユースなんかに行かせたら勉強ができないじゃない！あんたは馬鹿なんだから！！！」

反論ができなかった・・なぜなら俺は本当に馬鹿なのだ小学校のテストは５０点行けばいい方なのだから

仕方なく俺は地元の中学校に入学したが・・・・

１年生の部員が３人しかいない・・・・・つか先輩たち入れて１１人ピッたしってどういうこと！？

おれは途方に暮れていたしかも入学して１か月で・・・

　そんな時サッカー友達で小学校から一緒にやっていた石川　大我（いしかわたいが）が話しかけてきた。

「どうすんだよこの人数無理だろ！オマエがこっちでやるって言ったから来てやったのに！！」.

「す　すまねえただ俺もここまでとは思ってなかったんだ。」

ちなみにだが石川もサッカーは超うまい関東トレセンだがＤＦがナショナルに５人いるからいけないだけ

例年なら普通にナショナルに選ばれている（ちなみに俺はＭＦ）
「はあ～クラブいこっかなーこれじゃ何にも出来ねえよ～」
「うーん無理だ、母さんがうるさいからな.」
「もう二人じゃ解決できねえ純也呼んでこいよ！」
※純也＝森川純也（もりかわじゅんや）大我と孝祐には中学で知り合った地区トレセンメンバー。
大我はめんどくさいことは純也に押しつけようとする。
「しゃあーねーなおーい純也！大我が呼んでんぞ！」
しかし純也の声は校舎から聞こえてこない。
おかしいないつもならまだ校舎にいるか部室にいるのに・・・・・・・・・あ！・・・・・
「なあ大我」
「なんだよ！？」
「そういえばあいつクラブにも行ってるんだだから今日はいないんだきっと」
「え！？」
この返事を見る限り知らなかったようだな目が点になっている。
そしていきなり大声を出した。
「もう決めたあああ！！！クラブ行ってやるううう！！！！！」
ここまで大声を出すのは物事を決定したときだけだ。
この時点で俺は1年のサッカー部唯一の存在になったといっても過言ではなかった・・・・・・・

どうすれば・・・・・・（前書き）

大我と純也にクラブに行かれてしまって途方に暮れていた孝祐だが
そんな孝祐の前に現れたのは・・・・・・！

どうすれば・・・・・・

「はあ～もうやだ・・・・・」
クラブに行ってしまった大我と純也に電話で戻ってきてほしいと頼んだが・・・・
答えは二人とも同じ
「やだ！！！！」
「俺もいこっかなークラブ」そんなことを考えていると目の前に一人の少女が立っていた
「何やってんの孝祐？」
彼女は稲葉　美紅（いなばみく）俺と同中のやつだ陸上部のアイドルで思いっきりスポーツ美少女
って感じの女子（みんなには言ってないが実は俺たちは付き合っているのだ！）
「公園でしょげるってことはなんかあったんだね」
「うんちょっとあってね」
「ほらあたしに言ってごらん一応彼女なんだからねこれでもｗｗ」
正直この時言うのは嫌だったなんか負けを認めたみたいだったからだ。
「実は・・・・・・というわけなんだ。」
「ふーん人数が足りないというわけか・・・・・難しい問題だね」
でも今は言えるこの時言って正解だったと・・・・・。
「よし！あたしに任せときなさい！」
「え！？なんかいいこと思いついたの？？？」
「もちろんよあたしを誰だと思ってるの」
と言って家に飛び帰って行った、しかたないので俺も家に帰ろうと思って帰路に着いたとき携帯にメールがあった
件名　あのことで

本文
明日詳しく学校で教えてあげるから楽しみに待ってなさいね＼（^o^）／。

＼＝＝＝＝＝

なんだこのメール？素直にそう思ったこんな絵文字初めて見たからだ

続く・・・・・

いくぞ！！（前書き）

美紅が名案を思いついたというので学校で話を聞きたい孝祐しかし昨夜送られてきたメールが気になるその真実は！？

いくぞ！！

俺は朝起きてもあの事を考えていた
「美紅からのメールの正体は何だったんだ？」
ただそれだけを。
まあ悩んでいても仕方ないので学校に行くことにした
登校中～
「眠っみ～朝練かよ～」
そうつぶやく生徒がたくさんいる中俺はの～んびりと学校に向かっていた。
朝練はって？あるわけないだろこの人数で学校が朝からグラウンドを貸してくれるわけがない
もはや笑いごとだ。
～学校～
「おはよ～」
そんな声が廊下中からたくさん聞こえてくる、俺はめんどくさくてベランダからいつも教室に入っている先生がいなければ
「げっあれは主任の膝野だ」
膝野は規則違反を絶対許さないことで有名な先生なんで見つかると大目玉食らう
「しゃーねー廊下から行くか～」
でもこんな時に限って会いたいやつに会えず会いたくないやつに会うもんだ。
廊下の角を曲がりそこにいたのは大我だった
「お・おはよ～」
「あ・ああ」
うわ～気まずいなあこのフインキはって俺悪くないよねよーく考えてみると
まあいいかついでに美紅もこの辺にいるはずだって・・・・・い

ねえ
美紅がいつも話してるやつにどうしたのか聞いてみたすると
「ああ美紅？今日休みだよ昨日から風邪ひいたらしくてね」
へ！？マジでかよじゃあ明日に解決案は持ち越しか～・・・・・・・
つらいな・・・・
そう思っていたら意識が遠のいた

「ん！？ここはどこだ？」
「保健室よ」
んあれは保健室のおばちゃんああ俺気絶してたのか・・・・・・・っ
てなんで？
「あの～俺なんでここにいるんですか？」
「ああああなた最近疲れているでしょうそれよそれ」
確かに最近疲れていたでも何とか美紅の解決案に対する期待で耐え
てたけど今日は無理ってことで
精神的に来たってことか。
「今日はサッカー休むか」
そう思ってまた深い眠りに就いた。

続く

いくぞ！！（後書き）

メールの正体が明かせずじまいですいませんm（＿＿）m
次話の時に明かしたいと思ってますので待っていてください！！！！！

第４話

「ふぁ～よく寝た」
ふうじっくり寝たら疲れが取れた。けどだるい帰ろ。
そして俺はチャリ置き場に向かった。
～チャリ置き場～
俺は自分のチャリの前に着いた。しかしそこに俺のチャリはない、あるのはかごとその中に入った手紙
「は？名にこの状況？籠と手紙だけ？」
とにかく俺はそこにあった手紙を読んでみることにした。
すると手紙の内容はこうだった
孝祐へ
やっほ～＾＾美紅だよ＾＾。
ごめんね～風邪ひいちゃって明日また詳しく言うから許してｍ（ー ー）ｍ
ｐｓ自転車借りるよ～今日は歩いて帰って～んじゃね～
美紅より
「・・・・・・は？意味わかんねえ・・・・・・」
ひどくねコレいじめの一種に含まれるんじゃねえの？もはや（彼女だから許すけど・・・）
ちぇかえるか・・・・
ということで俺は歩いて帰ったのであった。
～自宅～
Ｅ－ｍａｉｌ　ｃｏｍｅｓ　ｔｏ　ｙｏｕ
「お！メールだれからだ？」
送信者　　美紅
本文
いや～自転車に感謝だね～、帰りすごく楽だったよ～。
もう風邪治ったから明日は学校行くからねえ～。

あと昨日の絵文字?って言っていいのか分からないけどあれ打ち間違いだったよ〜ごめんね。

ps今度の土曜暇?、暇ならデート行こ!

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8555l/

サッカー馬鹿の学園物語

2010年10月20日09時00分発行